

2025年も1月があったという間に終わってしまい、2月になろうとしています。寒波や大雪警報が出されていますが、大雪も地球温暖化の影響であるとか、今年の夏の猛暑が思いやられます。

2月号の特集は、小児循環器 最近のトピックスです。「胎児・新生児期に診断される徐脈症例の遺伝学的検査」では遺伝要因で徐脈をきたす疾患について概説いただきました。まれな疾患ですが、聴診時に心に留めていただきたいです。「胎児心疾患に対する胎児治療アップデート」では、左心低形成症候群などの胎児心疾患に対する胎児治療の進歩について概説いただきました。「遺伝性不整脈——先天性QT延長症候群・Brugada症候群」では、心筋のイオンチャンネルをコードする遺伝子の異常でおこるQT延長やBrugada症候群について概説いただきました。QT延長症候群は、心電図上QT時間が延長して心室頻拍、心室細動がおこる疾患であり、Brugada症候群は、心電図上右脚ブロックやST上昇がみられ、心室頻拍がおこる疾患です。いずれも小児でもみられる疾患です。「新しい抗心不全薬」では抗心不全薬の最近の進歩について、また小児科領域への適用について概説いただきました。Fantastic 4とか、ARNI（アーニー）とか、MRA、SGLT2、HCNとか、見慣れない単語がでてきます。これらの薬は循環器内科領域では使われる頻度が多くなってきています。ただ小児への適応は限られていて、エビデンス構築が望まれます。「小児心移植後の収縮能・拡張能評価」では、神経分布のない移植心がどのように新しい身体を支えているかが

わかり、興味深いです。「心疾患患児におけるRSV感染症」では、30日ごとに投与するパリビズマブと、最近登場した2回投与ですむニルセビマブについて、適応疾患などが概説されています。RSV感染症治療の進歩がうかがえます。以上、心疾患にまつわる最近の話題の特集です。

特集以外にも、「食道閉鎖症の出生前MRI診断」「新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症の予防」についての総説をいただきました。また「自閉症診断観察検査の支援計画策定における有用性」「急性腹症の鑑別診断としてのエルシニア感染症の臨床像」などの、日常診療にすぐ役立つトピックスも掲載されています。

そのほか「小児科外来プライマリケアにおける言語発達支援」では、言語発達遅延の児に対する支援の経験、ノウハウが述べられています。「令和6年能登半島地震から令和6年奥能登豪雨までを振り返る」では、能登半島の災害時の小児科対応の貴重な経験が述べられています。症例報告は長時間ホルター心電図で診断できた頻拍発作の例です。目で見える小児科では、皮膚所見から診断に至った色素失調症の報告をいただきました。「最近の外国業績より」では日本医科大学小児科教室から栄養、代謝、内分泌に関する論文を紹介いただきました。

以上、非常に充実した内容となっています。ご一読いただいた上で、手元に置いていただき、日常診療にお役立て下さいますようお願いいたします。

(中西 敏雄)

編集：中西敏雄・岡部信彦・清水直樹・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第66巻 第2号 2月号

2025年2月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 3,190 円（本体 2,900 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 49,500 円（本体 45,000 円＋税 10%）

〔年間 13 冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03-3811-7165〔雑誌部直通〕

Tel 03-3811-7184〔営業部直通〕

Fax 03-3813-0288

www.kanehara-shuppan.co.jp

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03-3637-0005

広告申込先 株式会社文京メディカル Tel 03-3817-8036

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。